

廃棄物学会ニュース

The Japan Society of Waste Management Experts

No.64

廃棄物学会

今、用語の氾濫に悩んでいます



廃棄物学会副会長 田中信幕

言葉、特に政治行政的に使われる言葉は、本質的に玉虫色である。特に、キーワード的に使われる言葉(用語)はその傾向が強い。それぞれの立場で自分に都合の良いように解釈して合意に達するからであろう。廃棄物分野でもゼロエミッション、ごみゼロ、循環型社会、循環資源、廃棄物等、発生抑制、排出抑制、再使用、再利用、熱回収、リサイクル、再商品化、等々多数ある。

すべてリサイクルして埋立処分する廃棄物が無くなるのが循環型社会と考える人がいる。言葉のいたずらである。ごみゼロは、不用品として発生するものがゼロと考える人がいるが、埋立物を最小化しようとする考えであるようであり、ゼロエミッションは家庭・事業所・都市などから排出される全ての廃棄物を何らかの再資源化施設に運び込むことであり、排出廃棄物をゼロにするわけではない。

廃棄物の勉強をしてまず戸惑うのは法律用語がやたらに多く、互いによく似ていることである。「廃棄物処理法」に言う処理は、管理(Management)である。法の第二条で、「「廃棄物」とはごみ、粗大ごみ、燃え殻、…をいう。」とあり、廃棄物とごみとは違う。このごみは、一般廃棄物と全く同一でもなさそうである。私たちがよく使う「都市ごみ(自治体が計画的に処理を行う廃棄物)」もごみでもないし、一般廃棄物でもない。収集は廃棄物を集めて回ることであり、運搬は積んだ廃棄物を目的地まで輸送することであり、収集運搬と一語で呼ぶ。ごみ処理施設の処理(Treatment)は中間処理で、最終処分(Final Disposal)は海洋投入が禁止された現状では、埋立処分(Sanitary Landfill)であり、行政用語では、中間処理と埋立処分を一括して処分という。しかし、英語で何というか

難しい(新しい日本語を作ったときそれを英語で表現できるかどうか考えると良いという)。処理には、再生や再生利用が含まれる。また、廃棄物の減量とは、廃棄物の排出の抑制と再生利用等からなる(廃棄物処理法第五条の二)。排出抑制は発生抑制(Reduce)と同じか。

「循環型社会(Recycling-based society)形成推進基本法」では、循環資源(recyclable resources)、廃棄物等(wastes,etc.)、発生抑制(those which can be reused must be reused)、再使用(reuse)、再利用(regeneration)、熱利用(heat recovery)、適正処分(those which not recycled under the foregoing three Subparagraphs must be disposed) 等々の用語が出てくる[このパラグラフの英語は、英文仮訳(環境省ホームページ掲載)に使用されているものである』

「資源有効利用促進法(Law for Romotion of Effective Utilization of Resources)」では、リデュース(Reduce)、リユース (Reuse)、リサイクル (Recycling)、副産物 (By-product)、再生資源(Recyclable resources)、再資源化製品(Resources-reconverted product)、再利用促進製品 (Resources-reutilized product)、省資源化製品(Resources-saved product)などがある。容器包装リサイクル法では再商品化(Recycling)という言葉もある[このパラグラフの英語は Clean Japan Center:" Recycling-Oriented Society", March, 2001から]

そろそろ、法律を整理統合して、用語も分かりやすく整理して欲しい。国民の理解を得て推進していく必要のある廃棄物問題においては、国民が分かりやすく誤解のない用語を用いるのが、急務ではないか。また、学会が寄与できるところではない

研究発表会実行委員会

第12回研究発表会(横浜大会)迫る

今世紀最初の研究発表会の開催が迫ってきた。開催日は平成13年10月31日からの3日間、場所はエキゾチックな風情が漂う街、ヨコハマである。発表論文も多数応募があり、循環社会の構築を踏まえた革新的な発表が期待できそうだ。

これらの背景を受け、地元の大学、自治体、企業などの関係者によって構成された実行委員会では、参加者がゆったりとした雰囲気で白熱した討論ができるよう企画を練っているところである。開かれた学会を目指し、特別講演会の市民への開放を予定している。講師は株環境文明研究所の加藤三郎代表,横浜国立大学大学院中西準子教授の両氏にお願いをした。また、市民サークルの活動発表の場も用意した。

さらに、研究発表会初の試みとして、環境新聞社主 催の環境ソフトウエア展がポスター発表と同一会場で 開催されるので、発表との相乗効果を期待している。 懇親会の出し物はヨコハマらしいものを、見学会は横 浜でなければ見られないような新鋭の施設をと、実行 委員会のメンバーが候補の選定に知恵を絞っていると ころだ。

ところで、開催場所は横浜の中心地で、横浜港や山下公園にほど近い。セッション会場は複数だが、それぞれ歩いて数分の距離に位置し、その途中には開港の歴史を刻む建造物が多数立ち並んでいる。そぞろ歩くと往時が偲ばれる。また、胃袋のためには、世界一と言われる中華街をはじめお好み次第であり、港の夜景と霧笛を舞台にグラスを傾けると更に疲れが癒えること請け合いだ。是非、期待をもってヨコハマに参集されるようご案内する。

(研究発表会実行委員会 委員長 杉島和三郎 記)

廃棄物学会ホームページ改革について

昨今のニュースはもっぱら構造改革ですが、廃棄物学会ホームページ(以下、HP)についても以下のように改革を実施することになりました。廃棄物学会HPは平成12年7月に正式版を稼働いたしました。インターネット検索サイト Yahoo!で"生活と文化>環境と自然>廃棄物管理"のカテゴリーに登録されていることもあり、会員以外のインターネットユーザーからもアクセスしていただくようになりました。HPを見て、入会申込みをされる方も増えつつあります。このようなインターネットユーザーに会員になっていただくチャンスと考え、会員向けのサービス強化と併せて、改革を実施することになりました。

(1) H P 運営組織について

これまでは主に会員向けのサービスとして、若手の会の有志(廃棄物学会 HP 作業部会)が中心となり、 事務局や各委員会から入手したデータを不定期に掲載する作業を行って HP を運営してきました。今後、より迅速な情報発信を図るため、各委員会 (総務、編集、企画、国際、年会) 地方組織 (当面、関西地区連絡会のみ) 学会事務局にそれぞれ HP 作成・運営担当者を選任していただき、各担当者が随時データ掲載・更新を実施できるような体制にいたします。ただし、若手の会の有志が全体をサポートする体制は維持していきます。

(2) 運営ガイドラインについて

一般のインターネットユーザーの利用も考慮し、

廃棄物の情報をわかりやすく伝えることを目指して、 掲載データを作成することとします。また、同時に 会員のメリットを明確にするために、会員用のパス ワードを必要とするようなページの掲載(例えば、 学会誌の記事を詳しく読めるページなど)も検討し ます。さらに、会員を含めたインターネットユーザ ーから廃棄物に関する質問が来ることを想定して、 質問・意見交換用の掲示板・チャットルームの設置 を検討します。

(3) サーバーの移転について

今年度中に民間プロバイダーを利用した新サーバ ーに移転します。これは現在利用している国立情報 学研究所が運営する無料サーバーには、 限がある、 アクセスカウンター、掲示板、学会誌 等の検索システム導入に制限がある、 HP アドレス が長く、わかりにくい、 事務局及び各委員会が利 用できるメールアドレスを複数用意できない、など の制約があるからです。サーバー移転に伴い、HPデ ザインのリニューアルを行います。リニューアルに あたっては、トップページ上のロゴ&デザインを専 門家に依頼して、親しみやすいものにします。 以上のような HP 改革に対するご意見、あるいは実現 してほしいことなどを下記までお寄せください。

gomigomi@mmm.muroran-it.ac.jp

(若手の会廃棄物学会) 作業部会 吉田英樹 記)

8月1日から廃棄物学会ホームページアドレスが変更になりました。新しいアドレスは、

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jswme/index.html

平成13年度廃棄物学会賞候補者募集

平成13年度廃棄物学会賞の推薦募集をいたしますので、 下記要項に従い、奮って推薦応募されますようお願いいたし ます。

推薦要項

- 1.表彰の対象
- 1) 廃棄物学会大賞

廃棄物学の進歩、廃棄物事業の発展に貢献し、顕著な 功績があった者

2) 廃棄物学会功績賞

本会の運営に顕著な功績があった者

3) 廃棄物学会有功賞

廃棄物学に係わる技術等の進展に顕著な貢献があったと評価され、画期的な業績をあげた者

4) 廃棄物学会論文賞

廃棄物学において、独創的な研究開発ならびに技術に 関する論文の発表により、当該学術・技術の進歩発展に 顕著な功績があった者

5) 廃棄物学会著作賞

廃棄物学に関する著作の発表により、当該学術・技術 の進歩発展に顕著な功績があった者

6) 廃棄物学会奨励賞

北海道支部(仮称)セミナー

廃棄物学のうち、限定された範囲項目についての独創 的な学術・技術・製品などで画期的な業績をあげた者

- 2.受賞候補者の資格:廃棄物学会賞受賞候補対象者は、個人又はグループ及び団体とする。個人の場合は原則として本会会員とし、グループ(5名以内)の場合は、グループの中に本会正会員が1名以上参加し、対象業績に主要な役割を果たしていること。また、団体は原則として、本会の公益会員及び賛助会員とする。
- 3.候補の範囲:表彰種別のうち廃棄物学会論文賞、同著作 賞および同奨励賞については、受賞候補年度よりさかのぼ り、原則として2年以内の功績又は業績をあげた者とする。 廃棄物学会大賞と同功績賞及び同有功賞については期間 に制約をおかない。
- 4.推薦の制約:同一の候補者に対して、同一の推薦者が、2つ以上の各賞の候補として推薦することは認めない。
- 5 応募の方法:本会正会員の3名の推薦によるものとする。
- 6. 表彰の方法:表彰審査委員会で慎重に審査の上、入賞者には表彰状および記念品を贈呈する。
- 7. 表彰の時期:表彰は平成14年度開催の本会定期総会において行う。
- 8.提出書類:申請には本会の所定様式(廃棄物学会賞推薦書様式)に従い必要事項を記載し、1件につき正1通、副2通(コピーで可)の計3通を提出するものとする。
- 9.提出締切日:平成13年11月30日(金)必着
- 10.提出先(送付先):廃棄物学会事務局 表彰担当 推薦書の請求およびお問い合わせは、廃棄物学会事務局まで

北海道支部(仮称)

2001年7月6日

「私たちが百百する魔芸物問題~住民参加と情報共有~」同個報告

廃棄物学会北海道支部(仮称)セミナーが、平成13年7月6日午後、北大クラーク会館大講堂にて開催された。当日は、代表幹事、グループリーダーからの活動中間報告、4名の講師による講演(「住民合意の形について」(北海道倶知安町 町長 伊藤 弘氏)「家電リサイクル法への取り組みと課題」(北海道エコリサイクルシステムズ㈱ 社長 吉田雅志氏)「廃棄物処理施設建設を取り巻く社会状況と情報レベル~情報共有が廃棄物問題を救う~」(㈱未来開発コンサルタント代表 米通 猛氏)「行政法における循環型社会の合意形成手続」(札幌大学教授 福士 明氏))参加者との総合討論の3部構成で行なわれた。一般117名、学生26名の合計143名と予想をはるかに超える多くの参加を得ることができた。

さて、廃棄物計画における合意形成の問題は、ほとんどすべての廃棄物問題解決において避けられない課題である。

本セミナーでは、まず、伊藤氏から「南後志地域廃 棄物広域処理連絡協議会」の広域化計画における適地 選定と自治体間の合意形成、倶知安町における住民合 意、議会の承認などについて、今日までの経験が詳細 に語られた。吉田氏からは、家電リサイクル工場が市 民への公開によって地域融和型施設として社会に受け 入れられていく可能性を、4 月以降の工場の操業実態 とともに説明いただいた。つづいて米通氏からは、北 海道の広域化計画の事例にもとづいた話題が提供され た。福士氏からは、廃棄物計画における合意形成に必 要な視点を行政法学の立場から解説していただいた。 その後、施設の立地とリサイクル活動、住民参加と情 報共有という視点をもとに、実務レベルでの問題解決 から理念的なレベルに関する問いかけまで、様々な観 点の質疑応答が参加者とセミナー講師との間で行われ た。「住民参加と情報共有」に関する主要な問いはおお むね出されたのではないかと感じる次第である。

4 時間という短い時間では当然尽くせない議論であったが、今後は廃棄物学会および北海道支部(仮称)のホームページなどを情報交流の場としてご活用いただき、それぞれの立場での問題解決に資するよう学会との関係をもっていただければ幸いである。北海道支

部(仮称)では、今後ともこのような活動を継続する 計画ですので、ご支援をよろしくお願い申しあげます。 最後になりましたが、ご協力いただいた関係各位に感 謝の意を表します。

(北海道支部(仮称) 東海 明宏 記)

計報 ~ 左合正雄先生ご逝去を悼む~

廃棄物学会名誉会員、東京都立大学名誉教授左合正雄先生には、平成 13 年 7 月 7 日午前 0 時 55 分に 入院中の東京都豊島区の病院でご逝去されました。享年 88 歳でした。

左合先生は、昭和 14 年 3 月東京帝国大学ご卒業後、同 35 年 4 月東京都立大学教授になられました。同 52 年 3 月東京都立大学を退官、名誉教授になられ、その後、東京理科大学で教鞭をとられました。この間、国の各種審議会、委員会等でご活躍され、わが国の廃棄物分野の第一人者として、廃棄物対策の確立にご尽力なされました。先生のご活躍は、廃棄物分野にとどまらず、これらのご功績により昭和 60 年に勲二等瑞宝章を受章されております。平成元年 8 月には、新たに設立された(財)廃棄物研究財団の初代理事長に就任され、多くの困難な研究課題への取り組みをご指導されました。

廃棄物学会には、平成2年3月の発足と同時にご参加いただき、以来、名誉会員としてご指導をいた だいてまいりました。心からご冥福をお祈りいたします。

【お知らせ】

ミラクルソル協会主催・廃棄物学会後援 平成13年度「ミラクルソル工法」技術講習会 第3回(九州会場)

開催日:平成13年10月17日(水)13:30~16:30場所:(財)福岡県中小企業振興センター(福岡県福岡市)第4回(大阪会場)

開催日:平成13年10月22日(月)13:30~16:30場 所:(財)大阪科学技術センター(大阪府豊中市)

問合せ:ミラクルソル協会事務局 西村

Tel:03-5687-1931

http://www.miracle-sol.gr.jp/

近畿化学協会・大阪工研協会・廃棄物学会協賛

会 員 状 況	H13.7.31 現在 ()内は、H13.*.1 以降の増減
正 会 員	3,531 (126)
学生会員	250 (15)
外国人会員(DM)	19 (0)
公益会員	113 (2)
賛助会員	212 (11)
計	4,125 (156)

注)外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.64 平成 13 年 8 月 30 日発行 廃棄物学会 〒108-0014東京都港区芝5-1-9豊前屋ビル5

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

100

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jswme/index.html 古紙配合率 100%再生紙を使用しています 技術・情報交流展「化学発信あらたな出会い' 2001」 開催日:平成13年10月10日(水)~12日(金) 場 所:千里ライフサイエンスセンター(大阪府大阪市)

参加費:協賛団体会員 6,000円

問合せ:(社)近畿化学協会 Tel:06-6441-5531 http://www.yo.rim.or.jp./~kinka

日本環境衛生センター主催

平成 13 年度循環型社会の創造に向けた廃棄物処理科学研究 シンポジウム

開催日: 平成13年9月20日、21日

場 所:日本青年館ホテル(東京都新宿区)

参加費:無料

問合せ:(財)日本環境衛生センター

Tel: 044-288-4896代 http://www.jesc.or.jp

事務局だより

学会員の皆さん、残暑お見舞い申し上げます。この夏は関東を中心に猛暑に見舞われましたが、いかがお過ごしでしょうか。この猛暑により、東京電力では2年10ヶ月ぶりに発電能力に余裕のある他社から電力の緊急融通をうけたとか。折しも同時期にはボンで COP6 が開催され、京都議定書運用ルールが合意されました。エネルギー転換部門(発電所等)は、地球温暖化ガスの一つである二酸化炭素総排出量のうち直接排出割合で約3割を占めています。今後の動向に注目です。 猛暑によりエアコンの販売

額が前年同月比で 10.5%と 2 ケタの増加とか。数ヶ月前には家電リサイクル法施行前の駆け込み需要があったばかり。法律の施行や気候変動が廃棄物問題にも直結しています。 事務局では、研究発表会準備に忙しい毎日を送っています。詳細は同封の参加案内のとおりです。皆様のご参加をお待ちしています。 第6号となる会員名簿が発行されました。当名簿に限ったことではありませんが、良からぬ利用をされることがあるようです。会員にとって貴重な情報ですので、適切にご利用いただきますようお願いいたします。 (K.0記)